第4分科会報告「学術雑誌問題（－電子ジャーナルと ILL を含めて－）」

松戸 良江*

日本医師会医学図書館

Ⅰ. はじめに

平成19年6月1日（金）に開催された第78回 NPO 法人日本医学図書館協会総会の第4分科会「学術雑誌問題（－電子ジャーナルと ILL を含めて－）」に出席した。司会は宇野彰男氏（北里大学医学図書館）、話題提供者は桐原真哉氏（横浜市立大学医学情報センター）、浅井将行氏（昭和大学図書館）の2名であり、参加者は76名であった。以下のとおり報告する。

Ⅱ. 電子ジャーナルの導入

1. 横浜市立大学の場合

はじめに、横浜市立大学医学情報センターの桐原真哉氏より「横浜市立大学における電子ジャーナルの導入経緯と相互利用における電子ジャーナルの複写受付の現状」と題しての話があった。

1) 横浜市立大学図書館の構成

横浜市立大学の図書館は中央館でもある学術情報センター（以下、横浜市大）と、医学・看護系の医学情報センター（以下、横浜市大医）の二つの情報センター、一つの病院図書室、そのほか二つの図書室で構成されている。

JMLAやNACSIS-ILLをはじめ、神奈川県医療情報ネットワーク協議会図書館部会など主に神奈川県内の病院図書室と連携している。

2) EJ 導入

横浜市立大学では平成13年度から電子ジャーナル（以下、EJ）の導入が始まった。当初は冊子とリンクしていない医学系EJのみであったが、医学系のEJから全学系のEJへ、さらにバックファイルの購入へと段階を踏んで導入しており、EJ購入と反比例するように購入洋雑誌数は減少している。医学看護学分野では約4,000誌のEJが利用可能である。

また、EJ導入と同時に相互貸借（以下、ILL）の複写依頼は減少しているが、和雑誌の需要が多い病院図書室においてはこの限りでない。

3) EJ 所蔵登録

大学内のOPACに反映させるためもあり、平成18年には既存の書誌データを利用して横浜市大がNACSIS-CATに所蔵登録した。しかし、所蔵データのメンテナンスが十分に行われているとはいいがたく、現状と異なる点がある。

4) ILL 複写受付における EJ

ILL複写受付におけるEJの利用については横浜市大が近隣の病院図書室を手始めにPRした。横浜市大医も臨床研修病院にアナウンスしたが、「現行医学雑誌所在目録」には未掲載である。しかし、ILLでEJの複写依頼が申込まれた場合は可能な範囲で受付ている。

2. 「現行医学雑誌所在目録」の場合

続いて、日本医学図書館協会（以下、医図協）の出版委員会委員長、浅井将行氏（昭和大学）より「現行医学雑誌所在目録における電子ジャーナル『所在』情報提供：これまでの経緯と今後の展望について」と題する発表が行われた。

1) 経緯

「現行医学雑誌所在目録」（以下、「現行医学」）は、平成

*Yoshie MATSUDO：〒113-8621 東京都文京区本駒込2-28-16。
（2007年8月31日 受理）

12年にアンケート調査を実施した際には100館中73館が利用しており、EJの収載を希望するという意見もあった。

しかし、当時は「現行医学」の原稿提出に労力がかかることから、NACSIS-CATのデータも提出する館では二度手間となり合理的でないとの批判も高かった。そのためNACSIS-CATのデータを「現行医学」に取り込むようにするのが第一の課題であり、EJに対する要望までは対応できない状態であった。

平成16年にNACSIS-CATのデータを取り込むことが技術的に可能になり、「現行医学」2005年版からデータの取り込みを実施している。EJの所蔵情報は要望が多かったため、まずは「現行医学」2004年版より参加館情報にEJのILL受付可否を掲載するようにした。

2) EJ 収載

収載に際して、レイアウトをどのようにするかが問題であったが、以前と同一の見出しで冊子・EJともに対応した形式で「現行医学」2007年版を作成した。条件付を含め、参加館の144館中75館がEJのILL受付が可能である。

収載総数は12,196誌のうち、2,099誌がEJである。冊子がなくEJのみが429誌あった。また、NACSIS-CATデータがないEJも130誌あった。

3) 今後の展望

「現行医学」の需要状況調査を行う予定である。

演者の個人的な意見として、「現行医学」にはEJの収載数が少なく、所蔵情報が出されていないことから、「現行医学」の作成を停止し、NACSIS-CATデータを充実させる方が良いと考えている。

Ⅲ. 質疑応答・ディスカッション

桐原氏に対して「横浜市大医のILL複写受付の処理に対する人数及び1日の処理件数はどのくらいになるか。EJでは出版社との契約に際して複写規制があると思うが、そのチェックはどのように行っているか」の質問が

あった。その回答は以下のとおりである。

・職員および派遣社員3～4名で対応している。どのような雑誌に複写依頼があるのか把握するために職員を充てている。EJのILL複写受付は横浜市大でまとめて行っているため、チェック方法については即答できないが、EJのみで発表された文献、冊子に収録されていない最新の文献のILL複写受付が多いようである。司会の宇野氏からは「コンソーシアムで購入しているEJはILL利用可を最低条件としている」と補足説明があった。

「現行医学」に対しては、「販路を広げるつもりなら病院図書室にも情報提供を求めて購入してもらえばよいのではないか。またEJ登録が煩雑であるならば、パッケージ名のための登録でも良いなどの工夫が必要ではないか」、「販売による医図協への収益があり、小規模の病院図書室にも利用がある以上、販売は続けるべき」、「フリーのEJデータを収録してはどうか」の意見が出された。浅井氏からは「ご意見を参考させていただき、検討させていただく」旨の回答があった。

EJのデータ登録に関しては「EJは流動性があり目録作業が大変である」、「面倒でデータの提出は行っていないが、EJのみの文献に限り対応している」、「登録やメンテナンスの煩雑さを理由にILLの意識が薄れてしまうほうが問題である」などの関連意見が出された。

Ⅳ. おわりに

現在の学術雑誌問題にEJの存在は大きく、無視できるものではない。EJ導入によって冊子の購入が減っている現在、EJでなければ入手困難な文献も出現しており、各館のEJ所蔵情報を把握できるツールが求められている。需要が高まる一方で目録作業の煩雑さなどから、データ提供が十分でない現状が今回の分科会でうかがえた。ILLの視点からも、それをどのように改善していくかが今後の課題であると考えさせられた。